

## 新型コロナウイルス感染症に関する情報及び課題について (てんどう創生の会・令和2年4月22日)

### 《現在の状況》

◎早出しサクランボの市場価格が3割程度下落している。6月の収穫時期を前に果樹農家が大幅な収入の落ち込みを心配している。

◎終息の見通しが立たないことから、雇用契約を解除された人がいる。

◎緊急事態宣言に伴い店舗を一時閉店しているが、賃貸料等の支払いが厳しいため、温泉街のスナックでは閉店を考えている店がある。

◎先行きが見えない中、不安の声を多く聞く。目に見える対策が安心につながるのではないか。そうした対策の必要性を感じる。

### 《必要とする施策》

◎新型コロナウイルス感染症の拡大防止に協力して営業を休業した飲食店等への支援事業を実施する。具体的には次のようなものが考えられる。

(案1) 休業要請に協力し県の緊急経営改善支援金の交付を受けた事業者に対し、30万円を上限として最大3か月分の家賃相当額を補助する。

(案2) 休業要請に協力し県の緊急経営改善支援金の交付を受けた事業者に対し、30万円を支給。

◎放課後児童クラブと保育所の「密集」をいくらかでも緩和するために、家庭保育に協力し放課後児童クラブ及び保育所を使わなかった場合の利用料の減免措置を実施する。減免措置があれば家庭保育に協力していただける家庭が増えるのではないか。

◎小学校の休校が5月11日以降も続く場合は、放課後児童クラブ支援員の疲弊を解消するため、小学校を午前中に開放し教職員が児童を見守る態勢を整える。

◎売り上げが減少した果樹、花等の栽培農家への経営支援を今後の状況を見ながら、適宜対応していただきたい。

◎新型コロナウイルス感染症を早期に終息させるために、市として次のような取組を実施する。

- ・市職員の出勤時間をずらす時差出勤を実施する。全員が一斉に出勤することによる更衣室等での「密閉」「密集」の機会を減らす。また、市職員が時差出勤を率先して実施することにより、民間事業者の範となり民間での浸透を図れる。
- ・公共施設のエレベータやトイレなど、複数の方がボタンやスイッチに触れることがある場所に、使い捨ての綿棒や爪楊枝などを利用して触れるようにしてボタンやスイッチに直接触れる機会を減らす。

◎市民の協力を得て、手づくりマスクの製作を推進し、「みんなで協力して難局を乗り越えよう」という雰囲気を醸成する。また、そのための材料提供や完成品の配付をどうするかといったシステムを整備する。

◎都道府県をまたぐ移動の自粛による帰郷困難者（特に学生）に、「応援ふるさと小包」として天童産の米、野菜、加工食品、自宅で遊べる将棋、マスク、市長からのメッセージ等を発送する。（新潟県燕市が実施している。）

◎新型コロナウイルス感染症が急速に拡大する中、高齢者や感染リスクが高い人にとって普段の買い物でさえ命がけになりつつあるため、食料品や生活必需品を届ける代行サービスを地元スーパーや薬局などの販売店と運転代行業者並びにタクシー会社と連携し、対象者への宅配サービスを実施していただきたい。

※参考 スイスのベリンツォーナ市が実施

（主な役割）

- ・販売店（地元スーパー、薬局）・・・市から届いた商品リストの仕分け、梱包
- ・運転代行業者並びにタクシー会社・・・販売店から商品を受け取り、注文者へ届ける ※その際に料金の受け渡しはNG。
- ・市・・・ホットラインの開設並びに注文者との対応（電話、FAX、メール）、注文者へ料金後納振込書を送付

◎財源については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために事業を中止したことにより不要となったものを積極的に活用していただきたい。